

5/6号設備運用状況

分野名	括り	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後1ヶ月の予定	2月		3月				4月				5月	6月	備考			
				19	26	5	12	19	26	2	9	16	下	上	中		下	前	後
5/6号設備運用状況	運用管理	1. 設備維持	DG、冷却設備等の維持	(実績) 計画的な点検の実施 (予定) 計画的な点検の実施												5号機計画点検の実施(次回 2018/4/2~2019/1/24) 6号機計画点検の実施(次回 2017/5/31~2018/4/4)	5、6号機の設備維持に必要な計画点検の実施		
		2. 使用済燃料の冷却	5号機使用済燃料の冷却	(実績) 使用済燃料の冷却継続(2015/6/1使用済燃料プールへの燃料移動完了) (予定) 使用済燃料の冷却継続												使用済燃料プール冷却継続	5号使用済燃料プールからの取り出しについては、1-3号機使用済燃料プールからの燃料取り出しのスケジュールに影響を与えないよう実施予定。		
		6号機使用済燃料の冷却	(実績) 使用済燃料の冷却継続(2013/11/29使用済燃料プールへの燃料移動完了) (予定) 使用済燃料の冷却継続													使用済燃料プール冷却継続	6号使用済燃料プールからの取り出しについては、1-3号機使用済燃料プールからの燃料取り出しのスケジュールに影響を与えないよう実施予定。		
		3. 滞留水の処理	建屋滞留水移送・処理	(実績) 滞留水移送・処理 (予定) 滞留水移送・処理												滞留水移送・処理	建屋内の滞留水を屋外タンクに移送後、RO装置にて処理後、構内散水。		
		サブドレンの復旧	サブドレン設備復旧方針検討	(実績) サブドレン設備復旧方針検討 (予定) サブドレン設備復旧方針検討											サブドレン設備復旧方法検討	既設サブドレンの揚水井はがれきの除去、浄化およびポンプは復旧済み 移送ラインおよびサンプリングタンク設置済み			

福島第一原子力発電所 5・6号機の現状について

(滞留水量の状況)

2017年3月30日

東京電力ホールディングス株式会社

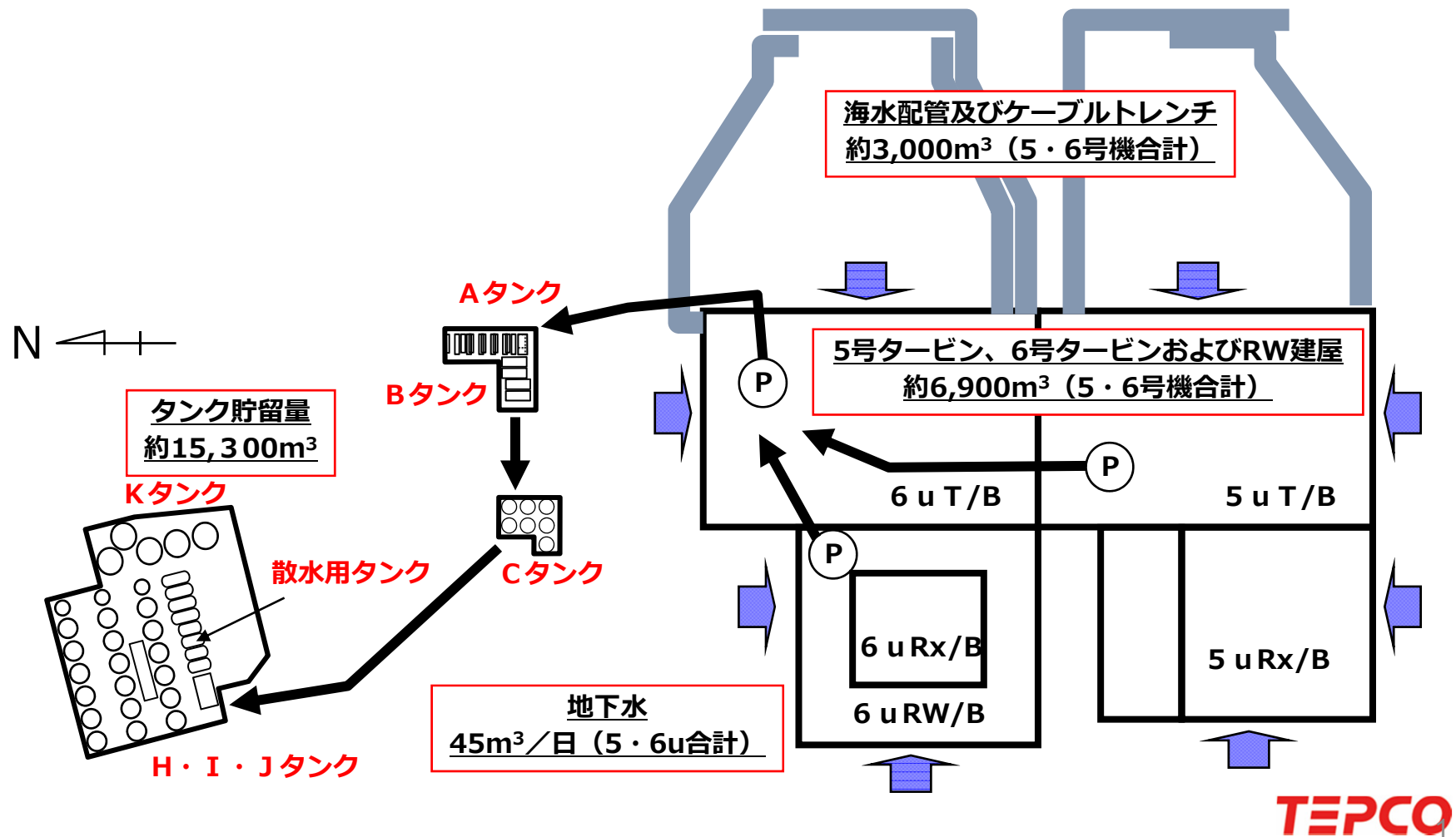
TEPCO

1. 滞留水量の状況

5・6号機滞留水の合計約34,200m³ (H29.3.27現在)

メガフロート
約9,000m³ (ろ過水, 海水)

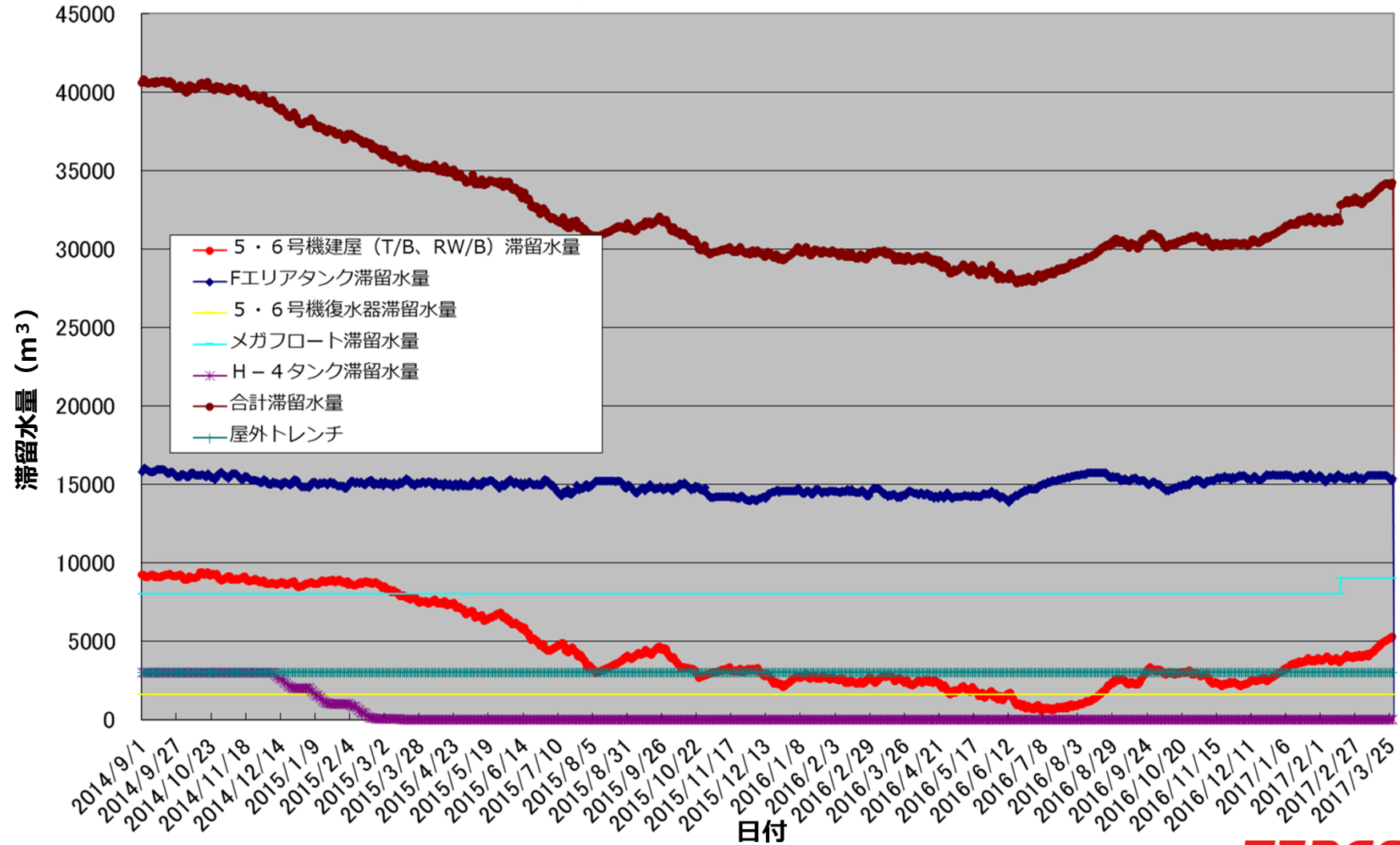
海



2. 滞留水量の推移

- 2014年9月から2017年3月までの滞留水の総量は以下のとおり

5・6号機滞留水量の推移



メガフロートNo.5VOID(北側)水位上昇に係る 点検状況と対応について

2017年3月30日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

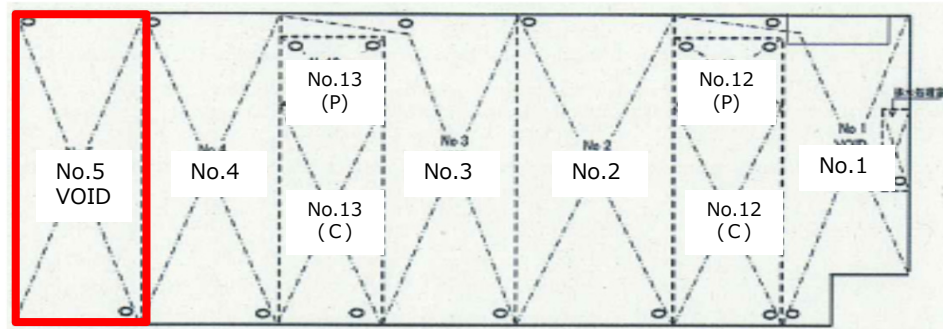
1. 事象の概要

2017年2月16日、メガフロート月例点検において各区画の水位測定を実施したところ、北側の区画 (No.5VOID) の水位が先月より約45cm上昇し、海水レベルと同等の水位にあることを確認した。また、No.5VOID以外の区画では水位上昇は確認されなかった。

海水の流入量は、水位の上昇から算出し、約1,000m³と推定される。なお、2017年2月22日以降、メガフロート周辺の海水監視強化を行い、放射性物質濃度に有意な変動は確認されていない。



■ 平面図



■ 断面図



単位: Bq/L

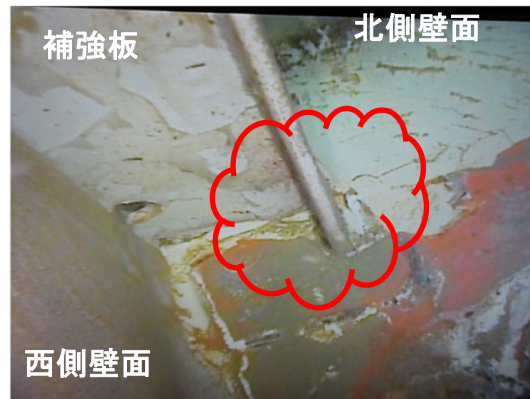
採取日	Void	Cs-134	Cs-137	Sr-90	H-3	告示濃度比
2014年 9月19日	1	0.69	2.05	ND(0.36)	ND(106)	0.048
	2	0.72	2.83	ND(0.39)	ND(106)	0.058
	3	0.94	1.59	ND(0.36)	ND(106)	0.047
	4	ND(0.67)	2.15	ND(0.36)	ND(106)	0.049
	5	ND(0.72)	1.99	ND(0.38)	ND(106)	0.048
	12P	2.83	2.72	ND(0.35)	ND(106)	0.091
	12C	1.89	5.17	ND(0.38)	ND(106)	0.103
	13P	ND(0.75)	2.55	ND(0.38)	ND(106)	0.055
13C	ND(0.73)	1.67	ND(0.37)	ND(106)	0.045	
2017年 2月16日	5	ND(0.63)	2.72	ND(0.599)	ND(80)	0.062

□ : 検出限界値未満

2. メガフロート調査（内部調査）

No.5 VOIDの壁面及び床面について水中カメラ及び潜水士による調査を行った結果、北西側の区画において3箇所の損傷を確認した。

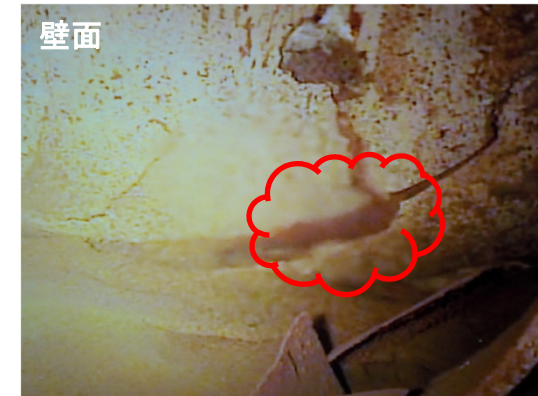
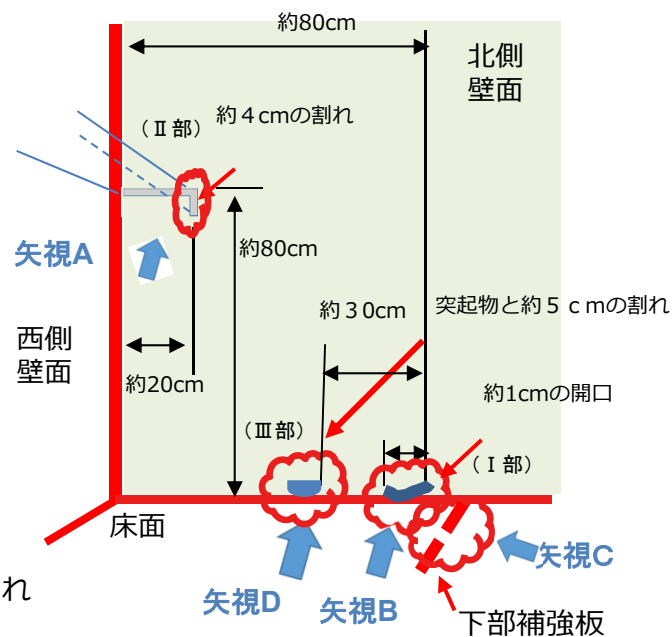
- 北側壁面と床面の接合部近傍に約1 cmの開口及び下部補強板に変形【Ⅰ部】
- 床面より高さ約80 cmの位置に取り付けられた補強板と北側壁面の接合部近傍に約4 cmの割れ【Ⅱ部】
- 北側壁面と床面の接合部近傍に突起物と約5 cmの割れ【Ⅲ部】



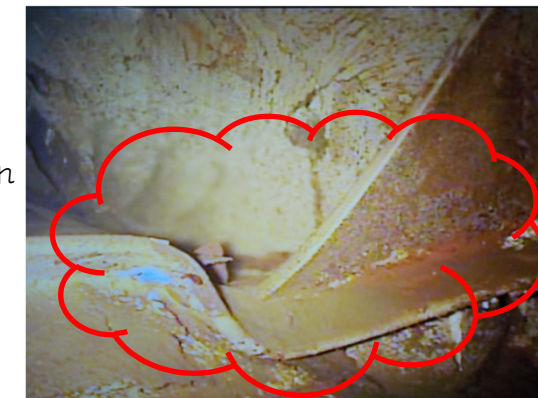
【Ⅱ部】（矢視A）約4 cmの割れ



【Ⅲ部】（矢視D）突起物と約5 cmの割れ



【Ⅰ部】（矢視B）約1 cmの開口

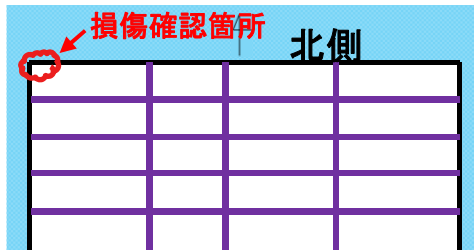


【Ⅰ部】（矢視C）変形した下部補強板

3. No.5 VOID内損傷箇所の補修及び流入確認結果

損傷箇所の補修（潜水作業※）

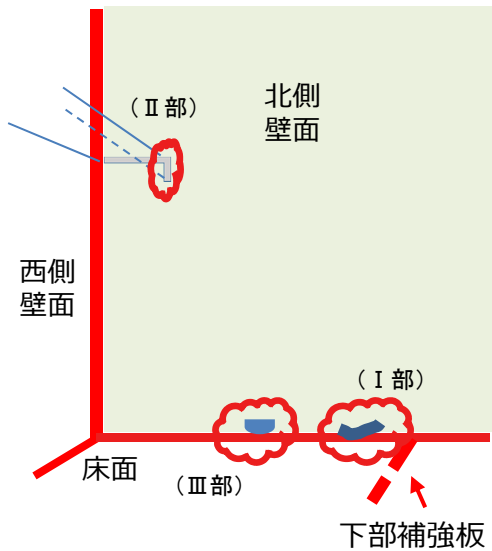
- VOID内面及び外面からの肉盛り溶接後，パテによる補修【Ⅰ部】
 - VOID内面からの肉盛り溶接後，パテによる補修【Ⅱ部】
 - VOID内面の突起物切断及び内面肉盛り溶接後，外面あて板溶接，パテによる補修【Ⅲ部】
 - 2017年3月22日～28日まで補修後の流入確認のため，No.5VOID水位を低下させ，水位上昇（海水の流入）がないことを確認
- ※：潜水土被ばく線量：0.00mSv



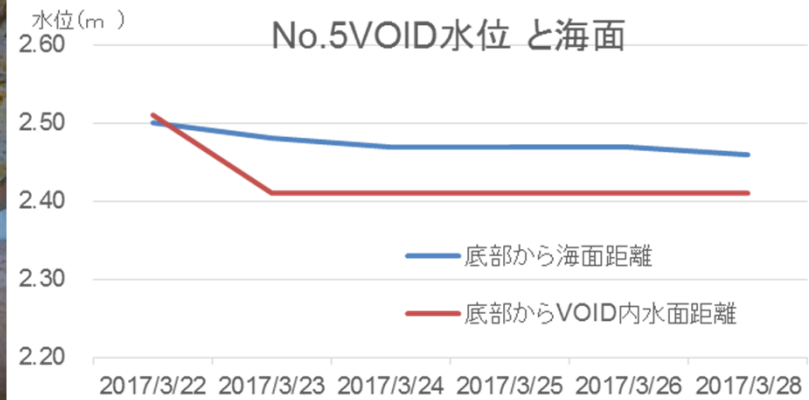
【Ⅰ部】内面・外面肉盛り溶接＋パテ補修



【Ⅱ部】内面肉盛り溶接＋パテ補修



【Ⅲ部】突起物切断，内面肉盛り溶接，
外部あて板溶接＋パテ補修

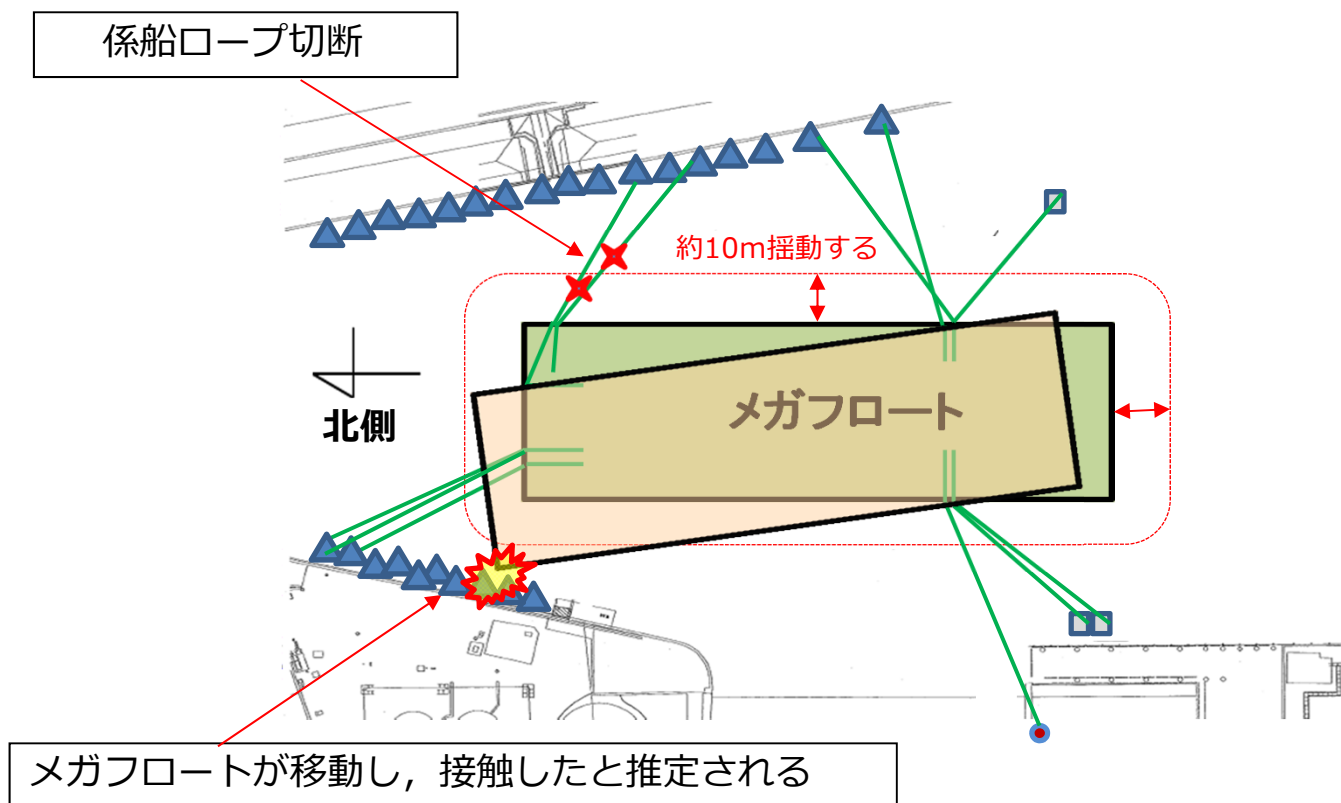


(3/27: 荒天のため，測定中止)

日付

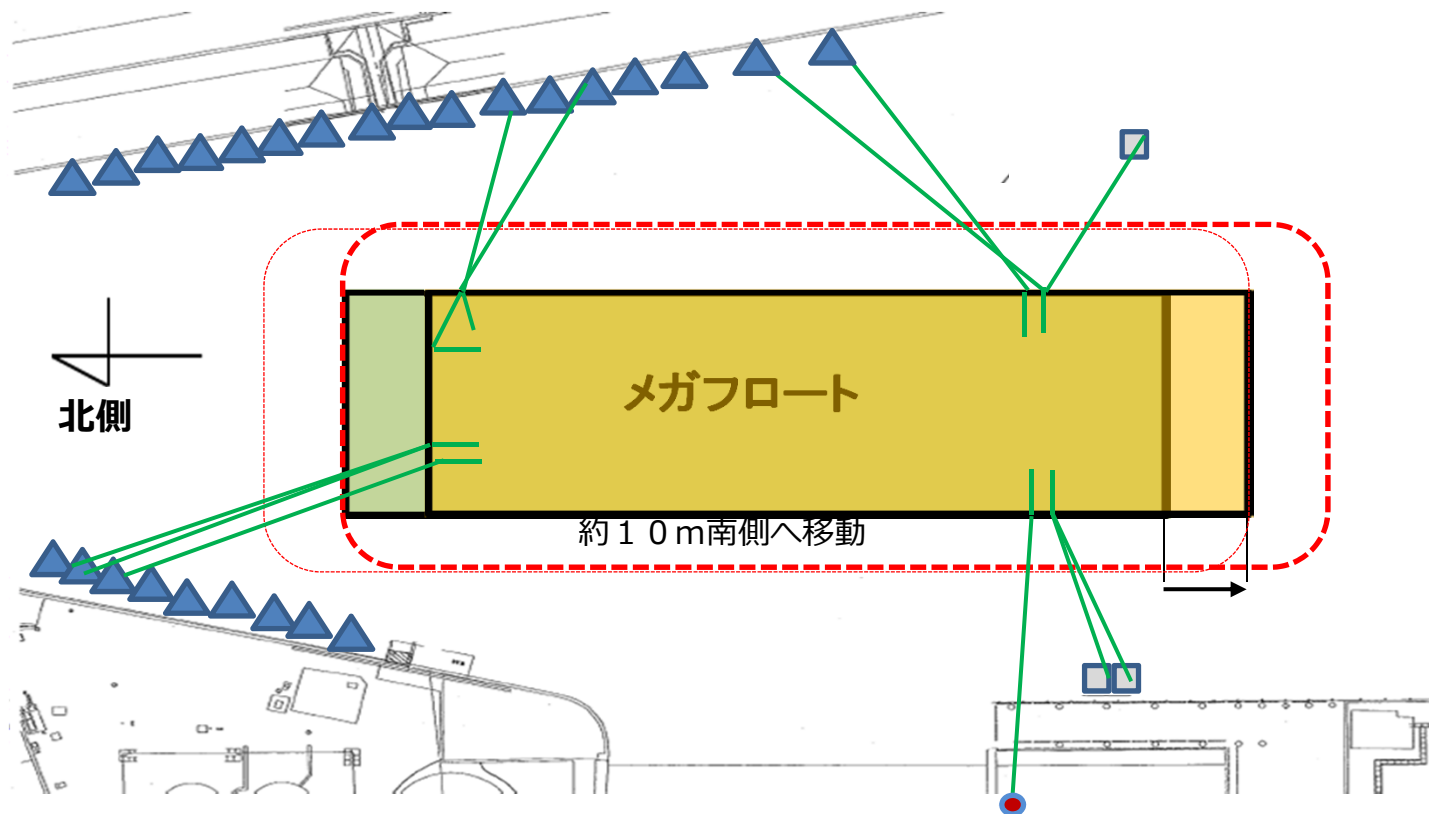
4. 推定原因

- メガフロートは潮の満ち引きにより上下するため、係船ロープのテンションに余裕を持たせている。そのため、東西南北方向に約10m揺動する。
- 変形及び割れが発生した原因については、係船ロープが切れた際にメガフロートが10m以上揺動し護岸の構造物（消波ブロック）に接触したことによるものと推定される。



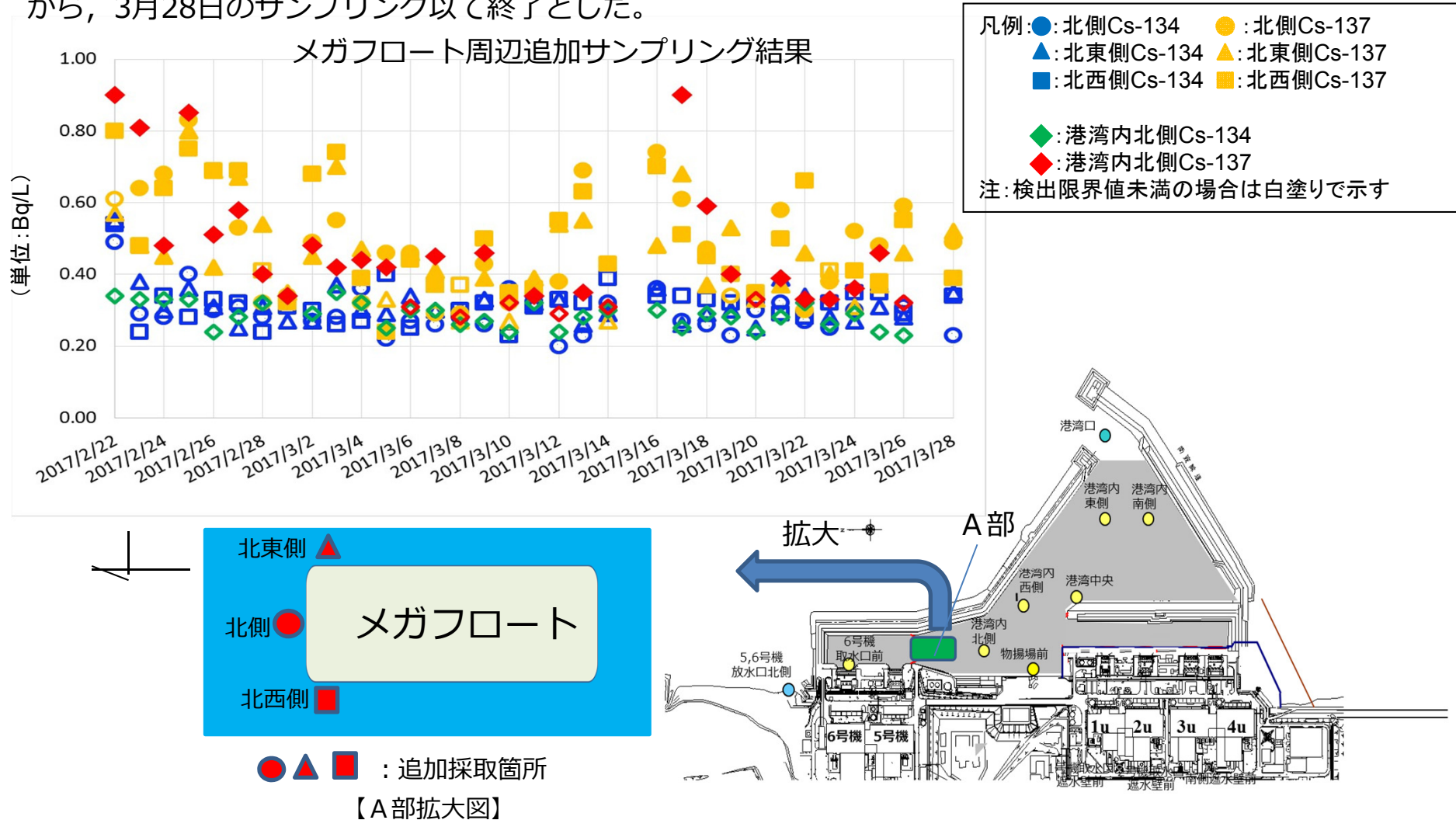
5. 対策

- メガフロートの係船位置は損傷がみられた北西コーナーが再度接触しないよう、南側へ10m移動した位置に調整。
- 係船ロープ切断時には、バラスト水の水位測定による監視を強化し、接触による海水流入の早期発見に努める。



6. メガフロート周辺の海水監視強化について

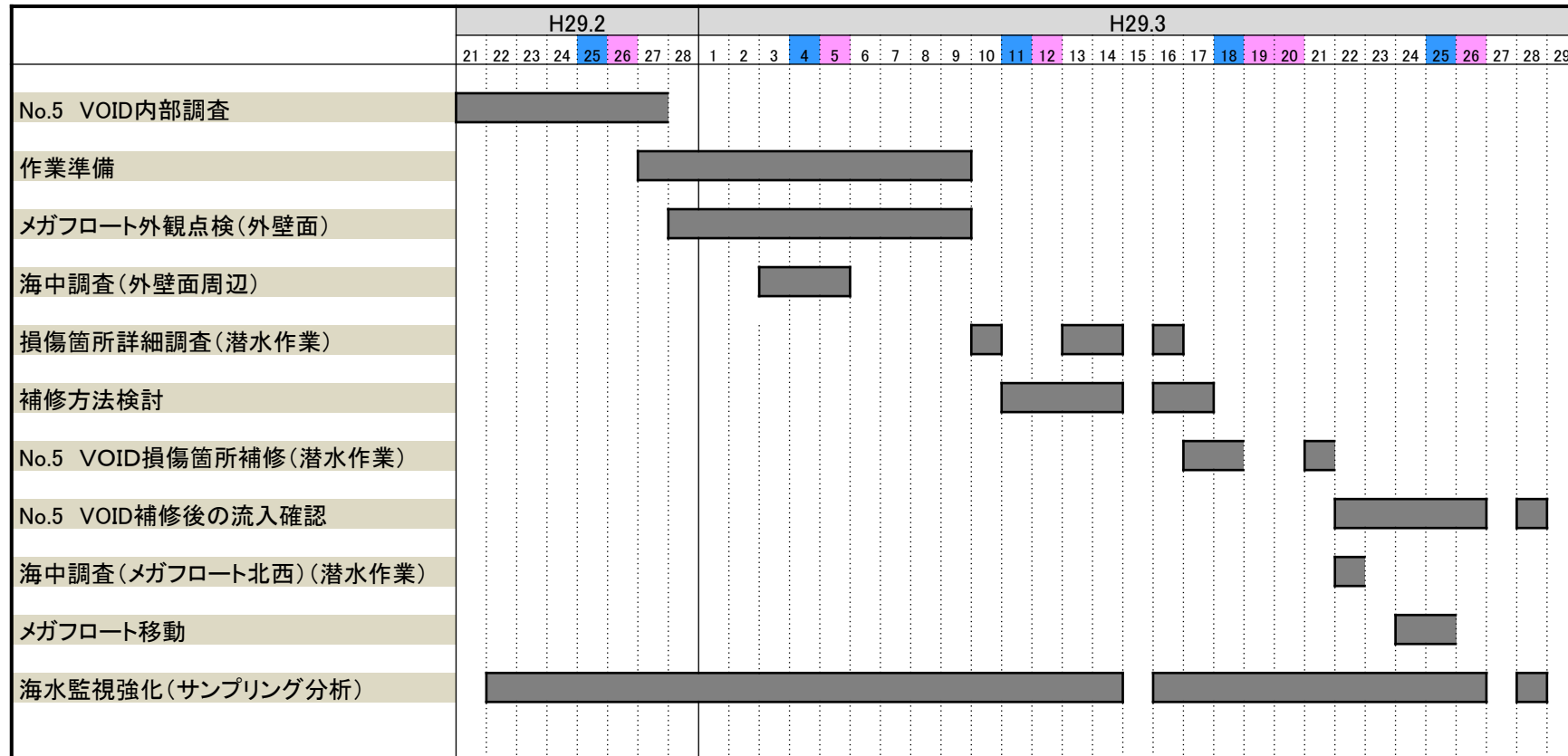
2017年2月22日以降、新たにメガフロート北側3か所にて海水のサンプリング分析を実施（1回/日）し、近隣の港湾内北側ポイントと比較した結果、放射性物質濃度に有意な変動は確認されていないことから、3月28日のサンプリング以て終了とした。



7. 実績工程



 : 実績



※3/15・3/27：荒天のため、作業中止

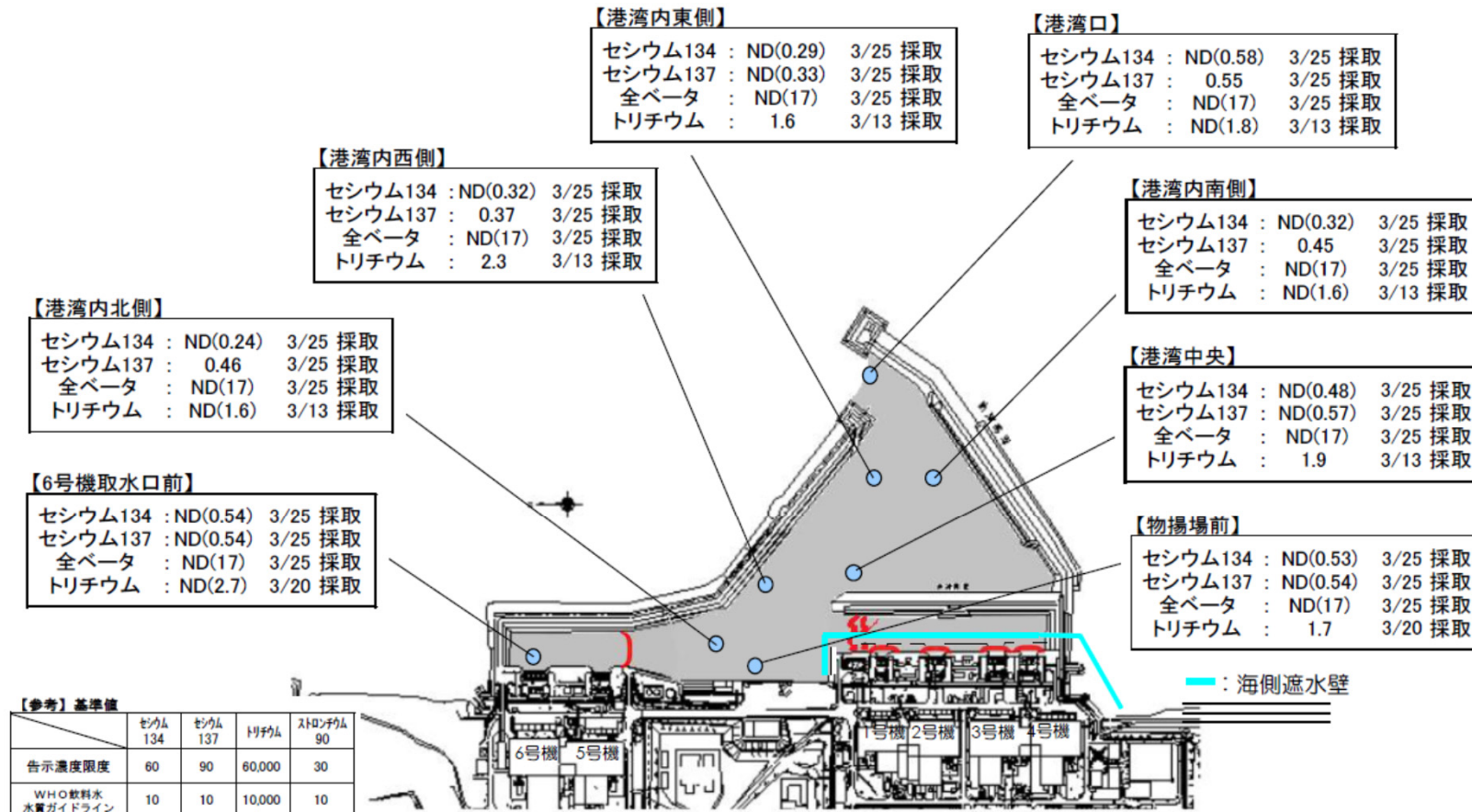
【参考】 港湾内外の海水濃度

2017年3月27日0時現在

2017年3月27日
東京電力ホールディングス株式会社

2. 福島第一原子力発電所周辺における海水分析結果(福島第一港湾内)

単位: ベクレル/リットル、NDは検出限界値未満を表し、()内に検出限界値を示す。
各地点の値は、「福島第一港湾内、放水口、護岸の詳細分析結果」の最新値。



告示濃度限度: 実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則に定める告示濃度限度(別表第2第六欄: 周辺監視区域外の水中の濃度限度)

【参考】メガフロート設備の概要

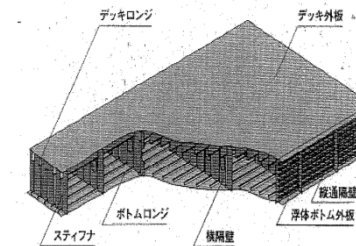
■ 仕様

- 大きさ : 全長約136m, 全高約3m, 全幅約46m
- 主要部材 : 鋼鉄製
- 重量 : 約4,000t (空倉時)
- 貯水量 : 約10,000m³

(*)静岡県清水市にて海釣り公園用に使用→2011年5月に福島第一原子力発電所港湾内に移動。
移動に先立ち係留設備, 移送ラインを設置。
内部は水密隔壁により9区画に分割されている

■ 使用状況

- 2011.5~2012.11
物揚場に係船, 5・6号機タービン建屋滞留水を貯留 (津波により建屋内に流入した海水が主)
- 2012.12~現在 : 物揚場への船舶入港の支障となることから現在の港湾内北側に移動
移動後当時の建屋滞留水の置換を行い, バラスト水としてろ過水を約8000m³貯留



メガフロート内部鳥瞰イメージ図

